

微量汚染物担当(平成18年度)

食品中の各種有害物質検査

平成18年度は、次に示す各種有害物質などの検査を行いました。

◇ 残留農薬検査

市内流通の国内産農作物12種36検体、輸入農作物8種15検体、輸入牛肉10検体、輸入豚肉10検体、冷凍食品(農作物)34検体及び厚生労働省「日常食品中の汚染物質摂取量調査」による加工食品13検体等、計131検体(延べ7,973試験項目)を検査しました。その結果、農薬の残留基準違反は認められませんでした。

◇ 食品汚染物質検査

1 PCB検査

カネミ油症事件で問題になったPCBについて、中央卸売市場に入荷した魚類14種19件の検査を行いました。その結果、厚生労働省で定めた「食品中のPCBの暫定的規制値*1」を超えたものはありませんでした。

◇ 動物用医薬品検査

疾病予防や治療または肥育の目的で使用されている動物用医薬品の食品への残留が問題化しており、次の物質について検査を行いました。

1 抗生物質

市内流通の養殖魚介類6種10件について、オキシテトラサイクリンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。

2 合成抗菌剤

養殖魚介類6種10件について、スルファジミジンなど14種類の合成抗菌剤の検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。また、市場流通の豚肉10件、羊肉5検体及び鶏肉10検体についてスルファジミジンなど11種類の合成抗菌剤の検査を行った結果、残留基準値を超えたものはありませんでした。市場流通の牛肉10件について、オキシソリン酸など7種類の合成抗菌剤の検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。

3 寄生虫用剤

市場流通の豚肉(脂肪)10件について、イベルメクチンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。市場流通の牛肉(脂肪)10件についてイベルメクチン、モキシデクチン及びエプリノメクチンの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。また、市場流通の豚肉(筋肉)10件及び鶏肉(筋肉)10検体について、フルベンダゾールの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。市場流通の牛肉(筋肉)10件について、クロサンテルの検査を行った結果、検出されたものはありませんでした。

*1 暫定的規制値

本来、食品に残留する有害化学物質の規制値を定めるにあたっては、長期毒性研究の結果から、人体の一日摂取許容量を算出し、これに基づいて食品ごとの規制値を定めるのが一般的です。しかし、PCB及び水銀の長期毒性研究は今も継続して行われています。このため、現在ある規制値は、入手できる限りの内外の調査研究結果から、暫定的に定められています。